

「令和2年度に実施した仕事」の振返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 3 年 4 月 15 日

事業名称		[国民健康保険高額療養費資金貸付事業]									
予算科目	款	基金のため予算科目なし	項		目		事業番号				
事業の種別	☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)										
担当部署・課長名	保険年金			課	国民健康保険給付			係	課長名	岩野 秀夫	
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。								施策番号	2 - 5		
【施策名】 社会保障の充実								総合計画書 (ページ)	63		
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 上記貸付に該当する東大和市国民健康保険被保険者の属する世帯の世帯主				→		① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 貸付対象となる国民健康保険被保険者数				
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 貸付制度の利用により、被保険者の療養を確保すること。				→		② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 実際の貸付件数/対象被保険者数				
	③ そのために何をしましたか。 国民健康保険法第82条、東大和市国民健康保険高額療養費資金貸付条例及び施行規則に基づき、著しく高額な療養費の支払のために生活が困窮している当該被保険者の申請により、高額療養費として請求する金額の範囲内で当該療養費の一部相当額(自己負担額を除く)を貸し付けるもの。				→		③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) 貸付金額				
2 指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度		成果目標			
				平成30年度実績	平成31年度実績	令和2年度実績		令和3年度目標		令和4年度目標	
	対象指標	①の数値	件	19,587	18,818	18,472					
	成果指標	②の数値	%	0.0	0.0	0.0					
	目 標	②の目標値									
目標値設定の考え方 申請者に対し、適正に貸付を実施する。「目標値」の設定については、なじまない。											
3 経費	活動指標		③の数値	円	88,800	0	0				
	事業費(実績)		円	88,800	0	0					
	財源	一般財源	円	88,800	0	0					
		特定財源(国・都・他)	円								
		(うち受益者負担)	円								
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	20.0	0.0	0.0					
		所要人数(再任用)	人								
職員人件費(再任用以外)		円	86,000	0	0						
職員人件費(再任用)		円									
事業費+人件費		円	174,800	0	0						
4 環境変化等	(1) 開始年度 昭和53 年度										
	(2) 環境の変化 現在の高額療養費制度に係る自己負担限度額は平成15年に改定され、平成19年からは70歳未満の被保険者の入院分も現物給付化されるなど被保険者の負担軽減を図る制度改正が行われてきた。また、平成24年4月からは外来診療分も現物給付の対象となったことから、今後、貸付制度の利用者の減少も想定され、利用実態を検証しながら事業規模の縮小等を検討する必要がある。また、医療機関の窓口で自己負担額までの支払で済む「限度額認定証」を発行しているため利用が少ない。										

※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。
人件費(再任用職員以外)
年間単価は、8,380,000円
時間単価は、4,300円
で計算してください。
【算出根拠】平成31年度決算数値。
(退職手当組合負担金、共済費も含む。)

事業名称	[国民健康保険高額療養費資金貸付事業]			
担当部署・課長名	保険年金	課	国民健康保険給付	係 課長名 岩野 秀夫

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和2年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
	抗がん剤等高額な薬剤や治療等の外来診療を受けている被保険者には、本制度は負担軽減の一助になる。			
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）			
	☐ 取り組んだ	取組手法：		
	☒ 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ）⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2)令和3年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点			
7 課題	(1)令和2年度に課題とした内容（「平成31年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和2年度に実施したこと。			
	なし			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）			
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。）			
施策名： 社会保障の充実				
☐ なっている ☒ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名（ ）				
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など）			
	☐ 拡大 ☐ 現状維持 ☒ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止			
	【取組内容】 今度の貸付状況を踏まえて、次年度以降の基金について検討が必要である。			
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等			